

スペイン語の未来と過去未来—その機能的異同について—

山村ひろみ (九州大学)

スペイン語の未来はフランス語の未来と同じくラテン語の *cantare habeo*, また過去未来もフランス語の条件法現在と同じくラテン語の *cantare habebam* に由来する。しかしながら、スペイン語の未来、過去未来はいずれも直説法の時制と見なされており、フランス語の条件法現在はその名が示すように直説法とは異なる独立した法として認められている。本発表では、このようなスペイン語の過去未来、フランス語の条件法現在の扱いの違いを、特に、スペイン語の未来と過去未来の振る舞いの観点から見ていきたい。

まず、以下のようなスペイン語の未来の用法を紹介し、それらが「未来」時制のどのような機能として解釈されるかを考察する。

(1) *Mañana lloverá (未来) en gran parte del país.* 明日は国の大部分で雨が降る。

(2) *Juan ya tendrá (未来) más de 30 años.* フアンはもう 30歳を過ぎているだろう。

(3) *Si los dos ángulos valen uno recto, el otro será (未来) ángulo recto.*

2つの角が直角に相当するならば、もうひとつの角は直角になる。

次に、同じく以下のようなスペイン語の過去未来の用法を確認し、それらが「過去未来」時制のどのような機能として解釈されるかを見る。

(4) *Ernesto afirmó rotundamente que asistiría (過去未来) a la reunión.*

エルネストはそのミーティングに出席するときっぱりと断言した。

(5) *Si los hombres fueran mujeres, todo sería (過去未来) fácil.*

男性が女性なら、すべては容易になるだろう。

(6) *¿Me podrías (過去未来) acercar la fuente?*

その大皿取ってくれる(あなたは私にその大皿を近づけることができるだろうか)?

(7) *En aquel entonces Juan ya tendría (過去未来) más de 30 años.*

あの当時フアンはもう30歳を過ぎていただろう。

(8) *Juan llegaría (過去未来) ese día un poco más tarde.*

フアンはその日はもう少し遅く到着しただろう。

(9) *Sevilla tendría (過去未来) próximamente carrera de psicología para los jóvenes que deseen estudiar esta carrera en el municipio.*

セビージャはまもなく当市で心理学を学びたいと願っている若者たちのために心理学課程を設けるとのことである。

そして、最後に未来と過去未来の機能を比較し、両時制の間にどのような相関関係があるのかを明らかにする。

ポルトガル語の未来と過去未来 - 推量および伝聞マーカー -

ギボ・ルシーラ (上智大学)

ポルトガル語の「未来」と「過去未来」は、次の例に見られるように、推量を表す形式(1,2)、また伝聞マーカー(3,4)としての機能を持つ。

- (1) Ele terá(Fut) seus vinte anos. (彼は 20 歳くらいだろう。) 【PP】
(1') Ele terá(Fut) seus vinte anos? (彼は 20 歳くらいだろうか。) 【PP/PB】
- (2) Haveria(Futcom) na festa umas 20 pessoas. (パーティーには 20 人くらいいる/いた
だろう。)【PP/PB】 (Bechara 2006)
- (3) A imprensa americana diz que serão(Fut) originários da Rússia(...). (アメリカのマス
コミによると (容疑者は) ロシア出身である。) 【PP】
- (4) De acordo com as informações do FBI, (...) as imagens teriam sido(Futcom)
posteriormente apagadas. (FBI の情報によると画像はその後削除された。) 【PP/PB】
(Oliveira 2015)

このように「未来」と「過去未来」は、共通のモーダルな、またエヴィデンシャルな用法があるが、実際どう使い分けられているのだろうか。本発表では「未来」と「過去未来」のそれぞれの単純形および複合形の 4 つの形式の特徴を詳しく見ていく。また、ポルトガルポルトガル語 (PP) とブラジルポルトガル語 (PB) を区別して、その共通点・相違点を明確にしたい。

例えば、「未来」も「過去未来」もいずれも推量を表すが、(1)で示しているように PP と PB で用法が異なる場合がある。PB では「未来」は疑問文でしか用いられず、平叙文では「過去未来」が用いられる。一方、PP では「未来」は文のタイプを問わずに用いられることができ、PB より使用頻度が高い。

また、伝聞マーカーとしての「未来」と「過去未来」は、内容の<他者性>を高める機能があり、話者の<責任逃れ>のために用いられる (Oliveira 2015, Duarte 2015)。ただし、(3)のように過去の出来事を指しているにも関わらず「未来」が用いられるのは、PP の特徴である。Oliveira は、PP における両形式の違いについて「過去未来」は、情報源を示す前置詞句と共起することが多く、「未来」は情報源が示されない場面でも用いられやすいとしている。そのため、(5)のような記事の見出しの例が一般的である。この特殊な用法を PB だけでなく他のロマンス語と比較対照しても興味深い。

- (5) Furacão Maria terá provocado(Futcom) quase 3 mil mortos em Porto Rico.
(ハリケーンマリアはプエルトリコで凡そ 3 千人の死亡を引き起こしている。)

(Euronews, 2018.8.29)

フランス語の単純未来形と条件法：叙法的対立とその源泉

渡邊 淳也 (東京大学)

(1) にみられるように、フランス語の単純未来形と条件法の対立は、条件法のほうが疑念をふくんでいたり、いっそう不確かであるなど、叙法的な対立であることが特徴的である。

(1) —Qu'en pensez-vous, **serait-il** au bureau ?

—Non, il **sera** plutôt chez lui.

(Schogt 1968, p. 47)

—どう思う、彼は研究室にいらるだろうか [条件法]。

—いやむしろ、家にいらるだろう [単純未来形]。

この点でフランス語と対極にあるのがスペイン語であり、(2)、(3) はいつのことを問題にしているのかという、時制的な対立である。

(2) Ernesto **tendrá** ahora unos cincuenta años (Cartagena 1999, p. 2959)

エルネストはいま 50 歳くらいだろう [単純未来形]。

(3) Ernesto **tendría** en aquel tiempo unos veinte años (ad loc.)

エルネストはあのころ 20 歳くらいだったろう [過去未来形]。

フランス語の「条件法」に相当するスペイン語の形式 (3) は一般に「過去未来形」(pos-pretérito) といわれており、直説法の一時制とされる。この命名のちがいは、ふたつの形式がなにを区別しているかという事実と見合っている。

フランス語では歴史的にも、単純未来形が未来時を指示する時制化の一途をたどったのに対し、条件法はそれ自体で不確かさをあらわすようになった。

本発表では、簡単に歴史的経緯を確認したあと、現代フランス語の条件法は、現行の発話文連鎖とは異質の連続性のなかに動詞事行を位置づけるはたらきを果たすという仮説を提出する。その最たる例は、つぎの (4) のような他者の言説をあらわす用法である。

(4) Selon le quotidien *Liberté* de mardi, qui fait l'état de « sources bien informées », il [=le bilan du massacre] **serait** de 428 morts et de 140 blessés.

(*Le Monde*, le 14 janvier 1998, cité dans 渡邊 2004, p.175)

「よく情報に通じた情報源」をひきあいに出す火曜の日刊紙「リベルテ」によると、虐殺事件のまとめは、死者 428 名、負傷者 140 人であるという。

また、現代フランス語の単純未来形は、モダールな用法が衰退しており、使用できる場合は何らかの形で未来時の視点が必要になるという点で、時制的性格が強くなっている。衰退した単純未来形の現在推量用法のなかで、こんにちでも比較的許容されやすいのは、未来時における確認 (vérification future) の可能性が明確な例である。

(5) Notre ami est absent : il **aura encore sa** migraine. (Grevisse 1993, p.1258)

ともだちは欠席している。また例の偏頭痛だろう。

[⇒「遅れてくるかもしれないが、見ている、彼は偏頭痛のせいだというだろうから」]